

第1章	総則	1
第1節	過去に発生した風水害の特性.....	1
第2節	被害想定	2

第1章 総則

第1節 過去に発生した風水害の特性

急峻な地形、急勾配の河川、「暴れ天竜」の異名をとる天竜川など、駒ヶ根市の自然条件は地震、風水害等の自然災害に対する危険性を常にはらんでおり、とりわけ豪雨災害は、多大な損害を地域住民に与えてきた。また、風の強い地域であるため、過去には幾多の大火災も発生している。

駒ヶ根市で発生した災害は、主として天竜川や太田切川の洪水による氾濫水害である。特に昭和36年の梅雨前線による集中豪雨では、死者5人、浸水家屋119戸、道路破損72ヶ所、橋梁被害33ヶ所、崩壊地多数、農地76.5ha、農作物167haに被害を与える明治以後最大の災害となった。記録については、資料2「風水害の記録」のとおりである。

第1 前線の影響による大雨

梅雨期や秋雨期には、前線上を東進する低気圧や台風の北上に伴い、南海上から流入する暖湿気流によって、前線活動が活発となり大雨を降らせることがあり、水害の直接要因となる。特に、近年、梅雨末期は集中豪雨となりやすく警戒を要する。

第2 台風の進路による影響

長野県の台風災害は、おおむね8～10月である。長野県から見た台風のコースによって、雨や風のおおよその傾向がある。影響を及ぼす台風を経路により大別すると、次の5つのコースに分けられる。

1 長野県を通過するコース

県内を通過する最悪のコースで、大雨と強風の被害が発生する。特に①のルートで県内を通過する場合、全県的に大雨と強風の被害が発生し、千曲川水系では嚴重な警戒が必要となる。

2 西側北上コース

長野県に接近して西側を北上するコースで、全県が暴風・大雨域に入り、風水害が発生する。特に木曾川、天竜川水系では嚴重な警戒が必要となる。

3 東側北上コース

県の東側を北上するコースで、台風の吹き返しによる強風の被害が大きくなる。特に台風に近い佐久地方の山沿いでは雨、風が強まる。また、東部や北部では大雨に対する嚴重な警戒が必要となる。

4 南側東進コース

太平洋側を東に進むコースで、典型的な雨台風である。伊那谷や木曾谷、佐久地方などを中心に一様な大雨となる。

5 対馬海峡から日本海中部を北東進コース

全般に雨量は少ないが、北部の山沿いで強風となり、北アルプス一帯では強い風、雨となるので注意が必要となる。

第2節 被害想定

水害（内水氾濫）の被害想定にあたっては、今後の防災アセスメントに依存するものとし、このときの降雨条件は、50年確率の日雨量（50年に1度の大雨のこと。）又は100年確率の日雨量（100年に1度の大雨のこと。）を用いて行う。

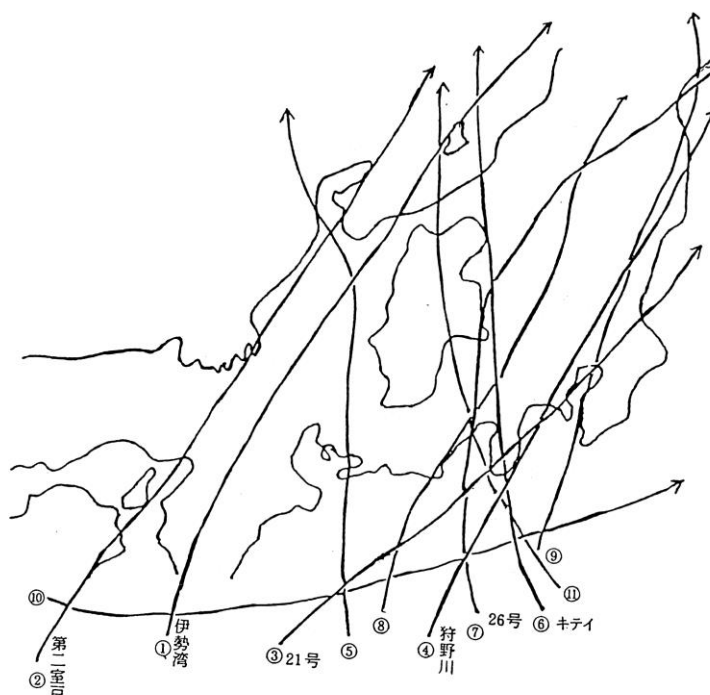
なお、当面は、昭和34年9月の伊勢湾台風、昭和58年9月の台風10号等の被害を想定する。

30年確率、50年確率及び100年確率の日雨量

観測所名	日雨量 (mm)			備考
	30年確率	50年確率	100年確率	
飯田	190	209	237	

資料：気象庁 異常気象リスクマップ

長野県に接近し被害をおよぼした台風の進路



①	昭和34年伊勢湾台風	⑦	昭和41年台風第26号
②	昭和36年第2室戸台風	⑧	昭和57年台風第18号
③	昭和33年台風第21号	⑨	昭和56年台風第15号
④	昭和33年狩野川台風	⑩	昭和58年台風第10号
⑤	昭和57年台風第10号	⑪	昭和34年台風第7号
⑥	昭和24年キティ台風		